

## fidataHFAS1-S10 の活用(34) (HP 収載)

### —DAC との LAN 接続(6)—

#### 1. はじめに

前報(33)に引き続き、DAC との LAN 接続について見直していきます。

#### 2. Sonica DAC との LAN 接続の試聴計画

前報(33)では、fidataHFAS1-S1 と Sonica DAC の LAN 接続と fidataHFAS1-S1 と USB DAC と USB 接続の比較を行いました。今回はさらに対象を広げ、音源の種類も変えて比較をしていきます。

音源は下記のものを使用します・

##### A) ベルリンフィルデジタルコンサートホール

ヘンリク・ヴィエニャフスキ ヴァイオリン協奏曲第 1 番嬰へ短調 op. 14

HIMARI (ヴァイオリン)

セバスティアン・ヴァイグレ指揮ベルリンフィル

ジョン・コリリアーノ 《レッド・バイオリン・カプリス》より抜粋

HIMARI(ヴァイオリン)

##### B) 同上 5.6MHzDSD 録音音源

##### C) 同上 44.1KHzWAV 音源 (5.6MHzDSD よりダウンコンバート)

再生ルートと試聴対象は次のとおりです。

再生ルート 1 : PC と Sonica DAC の USB 接続のストリーミング再生

試聴対象 A)

再生ルート 2 : PC の Sonica DAC の USB 接続の TEAC Hi-Red Editor による

PC 収納ファイル音源再生

試聴対象 B) および C)

再生ルート 3 : fidataHFAS1-S10 と Sonica DAC の LAN 接続による

fidataHFAS1-S10 収納ファイル音源再生

試聴対象 C) \*5.6MHzDSD は再生不可

再生ルート 4 : fidataHFAS1-S10 と micro iDSD BL の USB 接続による

fidata HFAS1-S10 収納ファイル音源再生

試聴対象 B) および C)

#### 3. Sonica DAC との LAN 接続の試聴結果

再生ルート 1 については、放送ストリーミング情報(2025No.372)で報告しています。

ヴェニャフスキのヴァイオリン協奏曲第1番は、透明感あふれるストラディヴァリウス「ハンマ」で、細い指の微妙なヴィブラートが美しく、繊細な表現を可能としています。アンコール曲のコリリアーノの《レッド・バイオリン・カプリス》では、重音や速いパッセージも見事です。

再生ルート2については、5.6MHzDSDは、再生ルート1の印象をほとんど再現していると言ってよいくらいです。44.1KHzWAVになると、音の緻密さは5.6MHzDSDからかなり後退します。

再生ルート3については、44.1KHzWAVは、おなじフォーマットながら、また、おなじDACながら、USB接続の再生ルート2にくらべて格段に音の緻密さがあり、5.6MHzDSDに戻ったかのような印象です。

再生ルート4については、5.6MHzDSDについてOPT ISO BOXの導入(11)で報告しています。改めて5.6MHzDSDを聴き直してみますと、安価なDACのmicro iDSD BLでありながら健闘しており、再生ルート1に近似した音質が確保されています。44.1KHzWAVになると5.6MHzDSDより格落ちするのは、再生ルート2と同様です。また、再生ルート3に及ばないのは再生ルート2と同様です。

以上、まとめると5.6MHzDSDは、44.1KHzWAVに比べると5.6MHzDSDの優位なことは揺ぎません。

おなじ44.1KHzWAVの再生は、PCとSonica DACのUSB経由の組み合わせとfidataHFAS1-S10とLAN経由のSonica DACの組み合わせとfidataHFAS1-S10とUSB経由のmicro iDSD BLの組み合わせでは、fidataHFAS1-S10とLAN経由のSonica DACの組み合わせの優位性は明らかで、LAN iSilencerの効果が効いています。

おなじ5.6MHzDSDの再生は、PCとSonica DACの組み合わせとfidataHFAS1-S10とmicro iDSD BLの組み合わせでは、かなり近接した音質です。

#### 4. まとめ

fidataHFAS1-S10とSonica DACとのLAN接続をその他の再生ルートと比較してみたわけですが、同じフォーマットであれば、fidataHFAS1-S10とLAN経由のSonica DACの組み合わせの優位性が確認できました。

以上